

明治史料館通信

2001. 4. 25 (季刊 年4回発行) Vol.17 No.1 通巻第65号

明治二年正月新刊毎月改

御家老 平岡丹波 朝倉十郎 朝倉九郎 津田具一 津田具二 津田具三 津田具四 津田具五 津田具六 津田具七 津田具八 津田具九 津田具十 津田具十一 津田具十二 津田具十三 津田具十四 津田具十五 津田具十六 津田具十七 津田具十八 津田具十九 津田具二十	御中老 浅野次郎八 肥田清五郎 津田具一 津田具二 津田具三 津田具四 津田具五 津田具六 津田具七 津田具八 津田具九 津田具十 津田具十一 津田具十二 津田具十三 津田具十四 津田具十五 津田具十六 津田具十七 津田具十八 津田具十九 津田具二十	御野左門 磯田和泉 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門 福岡久左衛門 福岡久右衛門	御事役 大久保一翁 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門 戸川平左衛門 戸川平右衛門	公儀人 杉浦兵庫 山岡鉄太郎 山岡鉄次郎 山岡鉄三郎 山岡鉄四郎 山岡鉄五郎 山岡鉄六郎 山岡鉄七郎 山岡鉄八郎 山岡鉄九郎 山岡鉄十郎 山岡鉄十一郎 山岡鉄十二郎 山岡鉄十三郎 山岡鉄十四郎 山岡鉄十五郎 山岡鉄十六郎 山岡鉄十七郎 山岡鉄十八郎 山岡鉄十九郎 山岡鉄二十郎	御用人 御井守之助	寄合頭 林三郎	御用人 朝倉勘四郎	御用人 高橋伊勢	御用人 井上八郎	御用人 前嶋末助	御用人 上田作之丞	御用人 小田又藏	御用人 神保修理	御用人 梅澤孫太郎	御用人 河田貫之助
---	---	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	--	--

明治2年正月駿河府中藩の木版刷りの役人名簿「御役名鑑」
(沼津市明治史料館所蔵)

明治2年7月の政府布達による静岡藩役職者や沼津兵学校教授らの改名の具体例は、布達前に発行された「御役名鑑」と同年8月以降に刊行された「沼津御役人附」、同3年刊行の「静岡御役人附」とを見比べるとよくわかる。すなわち、前者では江原三介が、後者では江原素六、阿部邦之助が阿部潜、西周助が西周、河野左門が河野九郎、戸川平右衛門が戸川平太、伊庭軍兵衛が伊庭軍平、福岡久右衛門が福岡久、諏訪中務が諏訪中、中村敬助が中村敬太郎といった具合に変化している。

シリーズ

沼津兵学校とその人材 60

沼津兵学校にみる明治二年の改名

江原素六が「素六」という名前を使用するようになったのは、明治二年（一八六九）七月のことである。その直前までは三介と名乗っていた。

同じ時、改名したのは江原だけではない。江原とともに沼津兵学校設立の中心になった阿部邦之助も潜と改名しているし、静岡藩の



江原三介の辞令（沼津市明治史料館所蔵）

脱走して官軍と抗戦し、弟に家督を譲ったため、三介(素六)自身は一代限りの徳川家(駿河府中藩)召し抱えとなったことを示す。

幹部連中をとってみても、平岡丹波が丹治、富永孫太夫が雄造、織田和泉が泉之といった具合に一斉に改名した。勝海舟が安房を安芳と改めたのもこの時である。

これは明治政府が行政官の名で発した布達の結果である。古代の律令制に基づく官職名が、その後近世に至るまで個人の通称として使用されてきたが、それをやめろというのである。王政復古を理想とした明治新政府らしい方針であった。具体的には、式部・内記・主水といった百官名と安房・和泉・丹波といった国名、さらには○太夫・○輔・○助・○介・○丞・○○進・○右衛門・○左衛門・○兵衛といった名前が、禁止・改名の対象とされた。

従って、明治二年の改名は全国的に実施されたものであり、武士だけでなく庶民も同様であった。たとえば、沼津近辺の平民においても、原宿の本陣渡辺平左衛門が

太郎作、獅子浜村の津元植松七右衛門が七十郎、重須村の名主土屋一之助が一平といったように、名を改めている。明治二年前後の史料を調べる際には、複数の名前が同一人物を指している場合が少なくなく、注意を要する所以である。

沼津兵学校の教授陣では、周助を周と改名した頭取西周以下、一等教授方の塚本恒輔が恒甫、二等教授の浅井六之助が雁六、三等教授方の天野鈞之丞が鈞、黒田久馬之介が久馬、高島四郎兵衛が四郎平、三等教授方並の榎令輔が令一、教授方手伝の熊谷次郎右衛門が次郎橋といったように改名したらしい。

改名のし方には、助・兵衛などを削除してしまうやり方、他の文字に入れ換えるやり方、江原素六や阿部潜のように全く別の名前にしてしまう場合などがあった。政府による強制を旧幕臣たる彼らはどう思ったであろうか。沼津勤番組の頭白戸石介は、石と介を一体化させたような「砂」という新しい一時名を付けており、頓智が効いているというか、破れかぶれの

感がある。

なお、兵学校の幹部・教授たちのうち、藤沢志摩守、矢田堀讃岐守、万年隠岐守ら受領名を持っていた者たちは、一足早く、慶応四年五月、旧幕臣の官位が廃されたのに伴い、それぞれ長太郎、帰六、精一と称するようになっていた。

資業生の場合も第二期吉村幹が旧名幹之丞から、真野肇が覚之丞から、第三期長谷部彦造が彦右衛門から、第四期大岡恂一が主税から、それぞれ改名し新しい名前を名乗ったように、明治二年七月布達の影響は当然生徒にも及んだはずである。

その後、再び改名の機会が訪れたのは明治五年（一八七二）。戸籍の確定のため、一氏一名とすべしという法令が出たためである。今回は改名しなかった者もいるし、前回改名しなかった者が今回改名した場合もある。あるいは、二度目の改名をした者もあるかもしれない。前掲の万年精一は、明治五年に千秋と改名、元服時に授かった頼徳の諱は廃している。

(樋口雄彦)

ぬまづ近代史点描 ④6

日本三大仇討「伊賀越の敵討」と沼津

江戸時代後期以降、「伊賀越の敵討」を題材とした人形浄瑠璃(文楽ともいう)や歌舞伎が各地で盛んに上演され、特に沼津の場面の人気が高かったことは、沼津の知名度を上げ、観光客を呼ぶのに大いに効果を発揮したらしい。

そもそも「伊賀越の敵討」とは、「曾我兄弟」「赤穂浪士」と並ぶ日本三大仇討の一つである。江戸時代初期の寛永十一年(一六三四)、岡山藩士の渡辺数馬が、伊賀上野の鍵屋の辻で、荒木又右衛門の助太刀により、弟を殺めた河合又五郎を討ち取ったという有名な仇討である。

この史実を、天明二年(一七八二)、近松半二等が人物名や時代設定を変えて脚色し、浄瑠璃『伊賀越道中双六』は完成した。全十段からなる時代物で、和田志津馬が唐木政右衛門の助太刀により、父の敵である沢井股五郎を討ち取るという物語である。特に六段目の



浄瑠璃本「伊賀越道中雙六 六ツ目の切 沼津里の段」(右は表紙、当館所蔵)
六ツ目の切とは、六段目の最後の部分のことで、この本は稽古用に用いられたもの。全十段が丸ごと書いてある丸本は、字が小さくて読みにくいため、稽古用には、大きな字で書かれた1段が1冊、1ページが5行の五行本(稽古本)が使われた。

「沼津の段」は、単独でもよく上演された。

「沼津の段」のあらすじは、沢井股五郎の親類に出入りしていた呉服屋十兵衛は、

股五郎を九州相良へ逃がす用意を頼まれる。沼津宿にさしかかり、たまたま荷を持たせた雲助の平作が、実は幼いときに別れた実の父親で、実

の妹のお米が股五郎を敵とねらう和田志津馬の妻であることを知る。十兵衛が出立した後、

真実を知った平作とお米は十兵衛を追い、千本松原で股五郎の居所を教

えて欲しいと頼むが、十兵衛は断る。すると、平作は腹を切り、死んでいくのだから教えて欲しいと頼むので、十兵衛は股五郎の行く先を教えるのだった。

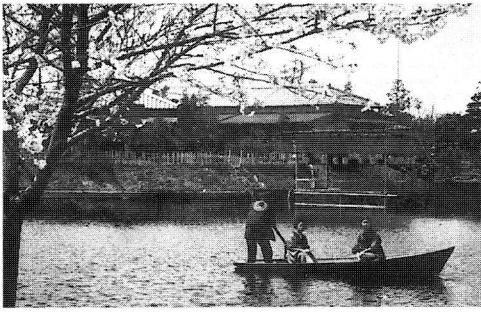
「沼津の段」の内容は、史実とは関係ない平作・十兵衛・お米親子の物語を創作したもので、時代に泣かせる世話場を加えた場面である。義理と人情の板挟みの中で起こった悲劇は、仇討の苦難の過程でも、ひととき人々の心を打ったのだろう。

このように、平作は実在した人物ではなかったが、沼津の人々は平作を身近に感じ、親しみをもち続けた。

黒瀬橋の北側の旧東海道沿いには、平作にちなんだ「平作地蔵」が祀られ、現在に至るまで延命子育て地蔵として信仰を集めている。また、昭和一二年刊の『沼津市



平作地蔵 (沼津市平町所在)



絵葉書「沼津平作茶屋の櫻花」(当館所蔵)
建物(平作茶屋)も池も、現在は住宅地となっている。

誌全』には、「平作饅頭と称するもの」を売り、平作と称する割烹店まで設けられて古跡を後に残さなければ」とある。この割烹店とは、かつて大岡の浪人川沿いにあった「平作茶屋」という、鯉料理が評判だった高級料亭であるし、平作の名の付いた饅頭が、観光名物として売られていたこともわかる。

平作は、「伊賀越の敵討」の史実には基づいていなくとも、沼津の歴史上の重要人物といえるだろう。(参考文献) 山田庄一『文楽』(一九九〇年)、日本古典文学大系99『文楽浄瑠璃集』、『沼津市誌』中・下巻、『国史大辞典』

お知らせ欄

◎5月19日は無料開館日

5月19日(土)は、江原公園で江原素六の記念祭が開かれます。当館では展示室を無料開放します。

◎7月1日は無料開館日

沼津市の市制記念日・7月1日(日)は、無料開館します。

◎平成12年度の主な受贈資料

興農学園関係資料(岩淵文人様・金子賜子様・中原志まよ様・渡邊進様・田中修司様・内村恵津子様・地券絵図面等(川口喜夫様)、鷹根村形勢一斑表(小澤甲子郎様)、日露戦争記念飾り皿等(高山サト様)、三十七八年戦役出征軍人調(山本三朗様)、東京全図等(富田修弘様)、鉄道乗車証等(井上成一様)、榎本武揚書掛軸(早川一郎様)、陸軍外套(殿岡よし江様)、乙骨太郎乙八十賀連句書幅(永井菊枝様)、原植松家文書(牧島光春様)、沼津市種牡山羊管理組合理事長封筒(稲木豊實様)、和本等(三樹良子様)、古文書(大川敏夫様)、原駅開業一〇〇周年記念事業関係資料(東海旅客鉄道株式会社原駅長様)

◎平成12年度の主な受託資料

和本(学校法人麻布学園様)、首塚関係文書(市道町自治会様)、獅子浜植松家文書(植松徳様)、久連区有文書(西浦久連自治会様)

◎平成12年度館蔵資料の出版物

への写真・資料提供(未刊を含む)

『明治建白書集成』第9巻(筑摩書房)、平成12年度『中学校夏休み』の友、田口親『田口卯吉』(人物叢書)、日本道路公団沼津工事事務所PR誌「あしたか、二〇〇一年納税カレンダー」、日本航空機内誌『アゴラ』、『清水町史料編V(近現代)』、『沼津東高二〇〇年史』、『沼津市史史料編近代2』

◎平成12年度館蔵資料の展示・放送用等貸出・提供先

沼津魚仲買商協同組合祝賀会(6月)、ケーブルテレビビック東海(7月〜9月)、富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「くらしを支えた職人」(7月〜2月)、「静岡朝日テレビ・終戦企画(8月)、静岡平和資料センター「子どもたちが見たホロコースト」展(10月〜12月)、相模原市立博物館「幕末・維新の

相模原」展(10月〜12月)、沼津市立金岡小学校「総合的学習(10月)、東急ケーブルテレビ制作ビデオ「ぬぬぬぬまづ史跡散歩道」、静岡県立中央図書館・静岡県視聴覚ライブラリー

◎館職員の人事異動について

4月2日付の人事異動により、館長大川雅夫が退職、後任に樋口勲(前教育委員会事務局参事監兼市立図書館長)が着任、主任学芸員樋口雄彦が退職(現国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授、後任に上野尚美(歴史民俗資料館学芸員)が着任しました。今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

史料をご提供下さい

史料館はタイムカプセル
史料を未来に伝えます。

沼津市明治史料館通信 第65号

編集 沼津市明治史料館
発行
〒410-0051 沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五九一三三三三五
FAX 〇五五九一三三〇一八
<http://www.city.niunazu.shizuoka.jp/sisetsu/meiji/index.htm>